

世界

ジャ・ジャンクー
賈樟柯
監督作品

イミテーションのちいさな世界で、ひたむきに生きるダンサー、タオ。
日々変わってゆく中国・北京の片隅で、愛を知り、涙を流す。
踊っていても、立ち止まっても、それでも世界は回りつづける――。



さあ、ショーが始まる。
未来への幕が開く。

The World

www.bitters.co.jp/sekai

第61回ベネチア国際映画祭コンペティション部門正式出品作品

出演：趙涛 チョウ・タオ | 成泰燊 チェン・タイシェン | 景珂 ジン・ジュエ | 孫中偉 ショウ・チュウウェイ | 王宏偉 ワン・ホンウェイ
撮影：余力為 ユー・リクウェイ | 美術：劉夢中 ムー・リーチュン | 録音：田嶋 謙・ケン | 編集：孔勁豐 コン・ジンレイ | 音楽：林強 リン・チヤン
監督・脚本：賈樟柯 ジャ・ジャンクー | エグゼクティブプロデューサー：曹昌行 | ヘンゲル・ドット・ピ | 潤滑：チウ・キョン | プロデューサー：吉田多喜男 | 市山高三
製作：パンダメディア | TOKYO FM | 電通 | テレビ朝日 | ビターズ・エンド | ルーメンフィルムズ | エグゼクティブプロデューサー：オフィス北野
配給：オフィス北野 | ビターズ・エンド | 協力：Agnès b. (アニメーショングラフィック) | 2004年 | カラー | 日本・フランス・中国 | 133分 | HD-35mm | シネマスコープ | Dolby Digital

愛のはかなさに涙を流し、人生の切なさに胸を熱くする—— 北京の片隅でひたむきに生きるダンサー・タオの、愛と涙に彩られたドラマチックな人生。



華やかなステージの裏に、日々紡がれるドラマがある。

北京郊外にあるアミューズメントパーク「世界公園」。ここで働くダンサー・タオは、毎日あでやかな衣装を身にまとい舞台上に立っている。職場では同僚たちから「姐さん」と慕われ、プライベートでは公園の警備主任として働くタイシェンという恋人もいるが、観客に振りまく笑顔とは裏腹に、将来に対して漠然とした不安を抱えている。稼ぐために転職する友人、寿退社が決まった同僚、女であることを利用してキャリアアップをはかる後輩、そして年上の女性に心を動かされているタイシェン……。憧れ、不安、嫉妬、失望、そしてささやかな喜び——さまざまな思いを抱えつつ、ひたむきに踊り続けるタオ。北京の街も2008年のオリンピック開催を前に日々変わってゆく……。移りゆく社会の波にのまれ、時には自分を見失いそうになりながらも力強く生きるタオの姿は、現代に生きる我々すべての心を激しく揺さぶるに違いない。



世界がその才能に喝采をおくる若き巨匠ジャ・ジャンクー。

監督のジャ・ジャンクー（賈樟柯）は、弱冠30歳過ぎにすでにベルリン、ベネチア、カンヌの世界3大映画祭を制した中国新世代の俊英。マーティン・スコセッシが「彼の映画はすばらしい!」と絶賛し、ジュリエット・ビノシュ、チャン・ツイーらが「彼の映画に出演したい!」と熱烈なラブコールをおくるなど、彼の才能は“現代の奇跡”として国内外の注目を集め、その作品は常に高い評価を受けてきた。しかし当局から上映禁止処分を課せられた彼の映画は、これまで国内で公開されなかった。04年、ようやく処分が解除され、05年4月「世界」は中国全国で封切られた。本作は、ジャ・ジャンクーが政府から許可を勝ち取った初の記念すべき映画としても、中国映画史にその名を永遠に刻むだろう。

各誌、大絶賛!!

(★4つが最高)

ELLE誌……………★★★★★ ル・モンド紙……………★★★★★
ユマニテ紙……………★★★★★ リベラシオン紙……………★★★★★
カイエ・デュ・シネマ誌……………★★★★★ テレラマ誌……………★★★★★

日々変わりゆく北京の“いま”

オリンピック開催を前に、急速に変貌する北京。都市開発の名のもとに古い街並みは破壊され、ビルやマンションへと姿を変えてゆく。その様子に、かつて東京オリンピックを控えた社会がめまぐるしく変化した高度成長期の日本を重ね合わせる人も多いのでは? 北京の“いま”を切り取りながら、そこに生きる人々の希望と挫折を鮮烈に映し出した本作は、現代を捉えた記録映像としても貴重な。



世界公園って?



映画の舞台となっている「世界公園」は、北京郊外に実在するアミューズメントパーク。エッフェル塔やピラミッド、タージ・マハールに五重塔といった世界40ヶ国109ヶ所のモニュメントが、46万㎡の広大な敷地内に10分の1に縮小、再現されている。諷いた文句は「北京を出ないで世界を回ろう!」

監督・脚本: 賈樟柯 (ジャ・ジャンクー) 出演: 趙涛 (チャオ・タオ)、成泰燊 (チェン・タイシェン)、王宏偉 (ワン・ホンウェイ) 製作: パンダイジュアル、TOKYO FM、電通、テレビ朝日、ピタース・エンド、ルーメン・フィルムズ、エクストリーム・ピクチャーズ / オフィス北野
配給: オフィス北野、ピタース・エンド 協力: agnès (アグネス ベーサンライズ) 2004年 | 日本・フランス・中国 | カラー | 133分 | HD-35mm | シネマスコープ | Dolby Digital www.bitters.co.jp/sekai

10.22^⑤よりドラマチックにロードショー!

特別鑑賞券 ¥1,500 (税込) 絶賛発売中!

劇場窓口および館内各プレイヤウインドにお求め下さい。
劇場窓口にてお買い求めの方にオリジナル・ポストカードをプレゼント! (※数量限定)

当日料金: 一般 ¥1,800 | 大学生 ¥1,500 | 小・中・高・シニア ¥1,000

銀座テアトルシネマ

有楽町線・銀座1丁目駅 | 銀座線・京橋駅 1分

Tel. 03・3535・6000 <http://www.cinemabox.com/>

上映時間 10:00 | 13:00 | 16:00 | 19:00